

年 組 名前：



地域活性化のアイデアを話し合う笛川学園の児童生徒

＝山梨市牧丘町窪平

地域活性小中生共に学ぶ

山梨市の義務教育学校「笛川学園」は、5～8年生（小学5年～中学2年相当）による地域活性化をテーマにした合同授業をしている。今春開校した同校は小中学校9年間の義務教育を一貫して行っていて、地域への理解を深めつつ、異学年交流の促進を図る狙いがある。（山本就己）

山梨・笛川学園 異学年交流し理解深める

グループを構成。地域の特性を生かしたイベント企画や特産品を使った「当地メニュー」の考案などを進めている。

「カルチャー」班は、標高が高く星がみえやすい地域の特性を生かし、星空観察のイベントを計画。6月下旬の授業では、役割を分担し、季節ごとに見える星座を調べたり、星座について解説するゲストに出演を依頼する動画のアイデアを出し合ったりした。

「ライフ」班は、人口減少対策として、空き家や空き地の活用案を検討。地域の魅力を紹介する冊子の作成も検討している。8年の吉本陽菜さんは「（5～6年生と）話す時は分かりやすい言葉、雰囲気意識している。授業を通してリーダーシップや企画力などさまざまな力を磨いていきたい」と話す。

小串吾郎教頭は「児童生徒は学年の垣根を越えたコミュニケーションを楽しんでいて、（中学進学時に適応に苦しむ）『中一ギャップ』解消につながっていくと思う」と手応えを語る。今後に向け「9学年全体による交流の機会を増やしていきたい」と話している。

（2026年8月8日付 山梨日日新聞 15面）

問1 今年開校した「笛川学園」は、何を一貫して行っている学校ですか。
また、そのようにした狙いを教えてください。

・何を一貫：.....

・その狙い：.....

問2 「カルチャー」班は、どのような特性を生かし、どのようなイベントを計画しましたか。

・特性：.....

・計画：.....

問3 「ライフ」班の吉本さんは、この授業を行うことで、何を磨いていきたいと話しましたか。

.....